



自己肯定感を高める授業をめざして

指導員訪問⑦ 保健体育科 6年「器械運動」 加藤 哲士 教諭



教師が友達と一緒に学習する環境を整えれば、運動を楽しみながら学習課題に取り組む加藤学級。しかし、他者を頼りすぎ、具体的な学習課題の設定に弱さを感じる子供たち。そこで、『課題発見力』を伸ばすことで、より自分に合った学習を選択でき、深い学びへとつながると願い、本単元「器械運動（シンクロマット）」を設定しました。本時では、動きを合わせるために大切なことを見つけ、考えを伝える姿があったかどうかです。



まず、前時の振り返りから、子供たちが本時の課題「合わせるために大切なこと」を設定。準備運動のあと、5チームそれぞれで練習5分、リフレクションタイム2分の3セットを実施。その間、「スパイ

役の子は他チーム視察、加藤教諭はゆさぶりをかけました。



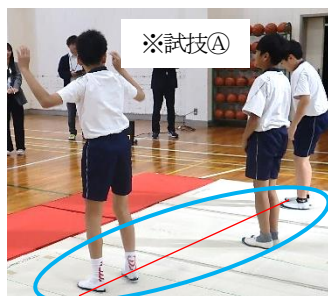
チーム①では、スパイからのかけ声「せーの」情報を試しましたが、

苦手意識を持った子(赤○)のタイミングが合いません。「勢いをつけて」もだめ。動画を確認、何

度も試すうちに「遅い人にスピードを合わせれば」へ。右の次時の学習課題を見つける場面でT12●でゆさぶり、チーム①のC21を引き出しました。

協議会では、ゆさぶりの有効性の確かさ、スパイや動画の効果的な活用など話題に。指導員から、『課題発見力』が子供主体の体育へ、振り返りから個の課題を設定する大切さ、代案としてめざすゴールを共通理解する見本を途中で提示しては、と教えていただきました。※最後にマット運動の実技講習会を実施

「タイミング」と「スピード」の視点で新たな課題を見つけた子供たち。実は、チーム①も「遅い人に合わせるとバランスを崩してうまく立ち上がれない」と最後にズレを感じていました。私ならここもゆさぶりポイントと。試技⑥から、さらに、安定した回転を生むために、自ら課題を発見するでしょうね。



＜授業記録より一部抜粋、編集＞

- ★5つのチームのボード並べて比較して
- T 1：多いのはここかな？（「せーの」の部分）
これやったよ？
- C 2：はい！（挙手、多くの子）
- T 3：どこが？
- C 4：最初、タイミング（多くのつぶやき）
- T 5：本当に合った？
- C 6：合った◎、いや、完全ではなかった▲
（つぶやき）
- T 7：何で完全ではない？
- C 8：「せーの」の「せ」なのか、「の」なのか、
声のタイミングで。
- T 9：ちょっとしてもらおうかな。
- ＜別チームから3名を指名、試技④＞
- C 10：せーの
- C 11：おー！（多数）（拍手）
- T 12：今、合った？今、シンクロしてたよ？
（挙手多数）●これでいい？
- C 13：だめだめ（多数）
- T 14：何がいかん？
- C 15：立つところの位置。
- C 16：距離。
- C 17：回る速さ。
- T 18：課題にしたよ？
- C 19：（挙手多数）
- T 20：これ、どうしたらいい？
- C 21：遅い人に合わせる。
- C 22：回ってる最中に1・2・3って。
- ＜別チームから3名を指名、試技⑥＞

